

モモせん孔細菌病に対する豊橋式春型枝病斑早期切除技術

豊橋式春型枝病斑早期切除技術とは

豊橋市のJA豊橋桃部会の篤農家により開発された耕種的防除技術で、**春型枝病斑の出現が疑われる枝(主に一年枝)**を**切除することで伝染源を取り除く技術**です。これまでの技術と組み合わせて実施しましょう。

実施時期

摘蕾から予備摘果時期にハサミを携行し作業のついでに、病斑枝を**早期切除**すると**効率的に実施**できます。

早期切除のポイント

- ① スポット的に発生するため、感染枝を発見した場合、**周辺の枝も必ず確認**する。
- ② **樹の上方の感染枝**は、発生源になりやすいため、必ず確認する。
- ③ 葉が繁茂すると発見しにくいので、**繁茂前に切除**する。

切除する枝の特徴

その1 発芽が悪い



発芽していないため**展葉**していない。

その2 葉が短い



全体的に葉が短く、特に**先端**が短い。

参考

健全な枝



発芽率が**4割未満**の枝は枝の**基部**から切除しましょう。
発芽率が4割以上8割未満または葉が著しく短い枝は**該当部分**を切除しましょう。

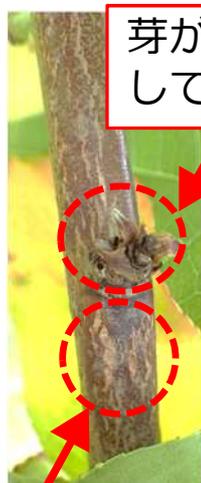
切除する枝の特徴

その3

枝の変色 葉痕部の変色 亀裂



枝の表面が褐色に変色しており、やや凹んでいる。



落葉痕の周囲が褐色に変色して、軽度の亀裂が発生している。

芽が枯死している



枝の表面が褐色に変色。健全部との境目に亀裂が発生している。



クサビ形に亀裂が発生

これらは必ず枝の基部から切除しましょう。

写真 福島県農業総合センター果樹研究所提供

参考 作業時間

早期切除は摘蕾か予備適期作業に合わせて実施するため、早期切除作業に費やす時間は1本あたり6秒程度です。そのため、10a 当たり栽植本数が25本、1樹当たりの1年枝が500本、早期切除実施割合が約5%の場合、1年間に費やす作業時間は**10a あたり1時間程度**です。

参考 経済性

早期切除に必要な資材は通常栽培管理に使用している剪定ばさみのみであり、導入にかかる費用は特に必要としません。

本技術を取り入れて、発病果を15%程度抑制した場合、愛知県の平均的な農家経営においては**年間10aあたり55千円**程度損失を少なくできる可能性があります。

作成：愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫研究室

企画普及部 広域指導室

作成協力：JA豊橋桃部会・東三河農林水産事務所農業改良普及課